

授業科目名： 身体作業療法学演習 Practice of occupational therapy I	履修年次 必修：作3年	単位数： 1単位 30時間	担当教員名：松尾真輔 (研究室：研究棟)、 須藤崇行、保田由美子、熊谷将志 植田修二郎（全員作業療法士）	
		コード：ROP301		
	実務経験のある教員による授業科目			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・中枢疾患の問題解決の方法を理解できる。 ・患者に起こりうる障害から作業療法計画を立案する流れを理解できる。 ・吸引手技の体験、リスク管理について実技を通して学び、理解できる。 ・病期別での身体障害における作業療法の実践を経験豊富な作業療法士の講義から理解できる。				
〔DP〕Ⅲ. 実践に必要な知識、Ⅳ. 健康づくりの実践、Ⅴ. 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の概要〕運動・感覚と知覚の障害に関する作業療法の対象者への治療的内容について、講義で得られた知識を基に評価・治療計画の立案、治療手法の実技等を習得する。本科目は、演習形式により、運動・感覚と知覚のうち中枢神経系疾患に起因する障害、変性疾患等に起因する障害、循環器・呼吸器疾患に起因する障害に対する作業療法の実際の作業療法計画の内容を中心として、活動や参加、さまざまな個人因子や環境因子と関連付けながら作業療法で提供しているプログラムの理解を図る。				
キーワード：急性期～回復期の作業療法、中枢神経、作業療法計画、作業療法の実践、吸引の実践				
〔授業計画〕※時間割と時間帯が変更されているので注意のこと				
回数	日付○限	テーマ	内 容	担当者
第1回	5/26③	オリエンテーション 臨床時の情報収集	他職種での情報の収集の目的を理解する。(GW)	松尾
第2回	5/26④	事例に合わせた 評価の選択・実践	事例の特徴を理解し、適切な評価の選定 (GW)	〃
第3回	6/9④	〃	事例の特徴を理解し、適切な評価の実践① (GW)	〃
第4回	6/9⑤	〃	事例の特徴を理解し、適切な評価の実践② (GW)	〃
第5回	6/16③	事例に合わせた課題と 問題点との抽出	事例より課題を整理し、問題点と利点の抽出① (GW)	〃
第6回	6/16④	〃	事例より課題を整理し、問題点と利点の抽出② (GW)	〃
第7回	6/23③	事例に合わせた 作業療法計画	事例より目標設定し、適切なプログラムを考案する ① (GW)	須藤
第8回	6/23④	〃	事例より目標設定し、適切なプログラムを考案する ② (GW)	〃
第9回	6/30③	病期別の OT 実践	急性期作業療法の実際	保田
第10回	6/30④	病期別の OT 実践	回復期・維持期作業療法の実際	熊谷
第11回	7/7③	事例の治療プログラムを実践	適切なプログラムを実施する① (GW)	須藤
第12回	7/7④	〃	適切なプログラムを実施する② (GW)	〃
第13～ 14回	7/14 ③④	呼吸やリスクの管理	模擬人形での吸引手技の体験、リスク管理	植田
第15回	7/28③	まとめ	実際の臨床場面に即した対応について	松尾
履修条件	特になし			
予習・復習	講義の都度に資料の整理に努め、内容の確認を行うこと。			
テキスト	作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 日本OT協会 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版 医学書院 理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	試験(50%)、レポート(40%)、日ごろの学習態度(10%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	精神作業療法評価学 Occupational Therapy For Mental Disorders	履修年次:	単位数: 1 単位	担当教員名: 科目責任者 岡村 太郎 [作業 療法士](研究室:仁戸名研究 棟8) 清水 大輝 [作業療法士]
		作業 2 年	コード ROP205	
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] III実践に必要な知識IV健康づくりの実践V健康づくりの環境の整備・改善				
[授業の到達目標及びテーマ]				
行動や心理的現象を評価し把握する方法について, その理論的背景と実際のな事項を踏まえ, 知識と技術を獲得する.				
[授業の概要]				
精神・心理機能障害の作業療法の評価について, 知識と技術を修得する. 精神・心理機能障害の作業療法の定義, 歴史, 作業療法士の役割, 及び, 精神・心理機能の各障害に適した評価方法・評価項目について知識を身につける. 精神作業療法評価学では, 精神障害の評価の基礎となる評価方法を学ぶ.				
キーワード: 精神, 心理, 評価				
[授業計画]				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	4/15	オリエンテーショ ン	講義の概要、目的、進め方について	
第 2 回	4/22	評価の概要・プロ セス	評価の意義、目的、方法、プロセス 情報の収集方法、整理について	
第 3 回	5/13	検査	臨床で使用する各検査の目的と概要について	
第 4 回	5/20	観察	観察の構造、形態、非言語サインの観察、 日常生活機能の観察と参加能力の観察について	
第 5 回	5/27	面接	面接の構造、形態、種類、留意点について	
第 6 回	6/3	作業面接	作業面接の視点、構成的作業、投影的作業について	
第 7 回	6/10	評価の実際	実際の臨床現場での評価や情報収集について 評価のまとめと焦点化について	
第 8 回	6/17) - 11:30	まとめ	精神作業療法評価学のテスト	
履修条件		特になし		
予習・復習		指定された教科書の予習とレポート等による予習・復習を課することがある		
テキスト		精神障害と作業療法【新版】病いを生きる, 病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践: 山根寛. 三輪書店		
参考書・参考資料等		ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版 中央法規出版		
学生に対する評価		レポート課題 (20%), 学習態度 (30%), テスト (50%) により, 総合的に評価する.		

授業 科目名	精神作業療法評価学実習 Practice of occupational therapy evaluation in mental health	必修：	単位数：1 単位	担当教員名： 科目責任者 岡村 太郎 [作業 療法士] (仁戸名研究棟研究室 8) 清水 大輝 [作業療法士]
		作業 2 年通年	コード：ROP206	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ倫理観とプロフェッショナリズム Ⅲ実践に必要な知識Ⅳ健康づくりの実践 Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善 Ⅵ 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 行動や心理的現象を評価し把握する方法について，その理論的背景と実際的な事項を踏まえ，技術を獲 得する。				
〔授業の概要〕 精神・心理機能障害の評価技術を修得する．疾病性・事例性からの対象者理解，病態像・臨床症状・障 害構造からの対象者理解，評価における定量的・定性的アプローチを身につける．それぞれの内容につ いて，演習形式により，学生相互の検討討論，教員または学生による模擬患者などにより対象者とのか かわりについて実技の修得を図る。				
キーワード:精神・心理機能障害，作業療法，評価実技				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	6/17	オリエンテーション	講義の概要、目的、進め方の説明	清水/岡村
第 2 回	6/24	精神作業療法の評価技法	評価の全体像、記録の書き方、情報収集	清水/岡村
第 3 回	7/1	精神作業療法の評価技法	検査	清水/岡村
第 4 回	7/8	精神作業療法の評価技法	観察	清水/岡村
第 5 回	7/15	精神作業療法の評価技法	観察	清水/岡村
第 6 回	7/22	精神作業療法の評価技法	面接	清水/岡村
第 7 回	7/24	精神作業療法の評価技法	面接	清水/岡村
第 8 回	7/29	精神作業療法の評価技法	作業分析評価	清水/岡村
第 9 回	10/7	精神作業療法の評価技法	環境の評価。集団・プログラムの評価	清水/岡村
第 10 回	10/21	精神作業療法の評価技法	環境の評価。家族・社会的環境の評価	清水/岡村
第 11 回	10/28	疾患別作業療法評価	統合失調症	清水/岡村
第 12 回	11/4	疾患別作業療法評価	統合失調症	清水/岡村
第 13 回	11/11	疾患別作業療法評価	気分障害（大うつ病性障害）	清水/岡村
第 14 回	11/18	疾患別作業療法評価	気分障害（双極性障害）	清水/岡村
第 15 回	11/25	疾患別作業療法評価	神経症性障害	清水/岡村
第 16 回	12/2	疾患別作業療法評価	摂食障害	岡村太郎
第 17 回	12/9	疾患別作業療法評価	物質関連障害	岡村太郎
第 18 回	12/16	疾患別作業療法評価	パーソナリティ障害	岡村太郎
第 19 回	12/23	疾患別作業療法評価	器質性精神障害	岡村太郎
第 20 回	1/6	疾患別作業療法評価	心的外傷およびストレス因関連障害	岡村太郎
第 21 回	1/13	精神作業療法の評価技法	情報の統合と目標設定、支援計画	岡村太郎
第 22 回	1/20	振り返り	振り返り	岡村太郎
第 23 回	1/27	まとめ	精神作業療法評価学実習のテスト	岡村太郎
履修条件		特になし		
予習・復習		指定された教科書の予習とレポート等による予習・復習を課することがある		
テキスト		精神障害と作業療法，三輪書店．ICF 国際生活機能分類―国際障害分類改定版，中央法規出版		
参考書・参考資料等		特にないがこちらで用意するプリントがあるので授業には必ず必携のこと．		
学生に対する評価		レポート課題（20%），学習態度（30%），テスト（50%）により，総合的に評価する．		

授業 科目名	精神作業療法学 (Occupational therapy in mental health)	履修年次:	単位数:2 単位 30 時 間	担当教員名: 科目責任者 岡村 太郎 (研究室 8) 清水 大輝 [作業療法士]
		必修:作2年	コード: ROP207	
		実務経験のある教員による授業科 目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム, Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、精神障害領域の多職種連携に必要な、代表的疾患に対する作業療法の目標設定とプログラ ム立案の方法を修得することを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 ① 総論、地域生活支援の方向性 ② ICF に基づく疾患別作業療法支援				
〔授業の概要〕 精神保健福祉における障害の特徴・回復過程に応じた作業療法の目標設定、プログラム立案の方法を 身につける。精神障害領域の代表的疾患として、気分障害、統合失調症、不安症群、ストレス関連性障 害、精神作用物質使用の精神・行動障害、生理的障害・身体的要因の行動症候群、成人の人格・行動の 障害、青年期の行動・情緒障害、器質性精神障害を学ぶ。本授業はオムニバス方式により行い、主に、 総論は岡村太郎が、各論は精神障害の作業療法の実務経験に基づき清水大輝が担当する。 キーワード:地域精神保健福祉、作業療法、支援方法				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	10/3	オリエンテーション	講義の概要、目的、進め方の説明	清水/岡村
第2回	10/10	支援構造と支援方法	回復過程、リカバリー	清水/岡村
第3回	10/17	支援構造と支援方法	地域移行支援、地域生活支援	清水/岡村
第4回	10/24	支援構造と支援方法	就労移行・継続支援	清水/岡村
第5回	10/31	疾患別作業療法支援	統合失調症（急性期）	清水/岡村
第6回	11/7	疾患別作業療法支援	統合失調症（回復期・維持期）	清水/岡村
第7回	11/14	疾患別作業療法支援	大うつ病性障害	清水/岡村
第8回	11/21	疾患別作業療法支援	双極性障害	清水/岡村
第9回	11/28	疾患別作業療法支援	神経症性障害	清水/岡村
第10回	12/5	疾患別作業療法支援	摂食障害	岡村太郎
第11回	12/12	疾患別作業療法支援	物質関連障害	岡村太郎
第12回	12/19	疾患別作業療法支援	パーソナリティ障害	岡村太郎
第13回	1/9	疾患別作業療法支援	器質性精神障害	岡村太郎
第14回	1/23	疾患別作業療法支援	心的外傷およびストレス因関連障害	岡村太郎
第15回	1/30	まとめ	精神作業療法学のテスト	岡村太郎
履修条件		特になし		
予習・復習		予習にテキスト、復習にノートを参照のこと。		
テキスト		国際生活機能分類（ICF）―国際障害分類改定版一、中央法規 標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学、医学書院		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		試験（60%）、課題（30%）、日ごろの学習態度（10%）により総合的に評価す る。		

授業 科目名	精神作業療法学演習 (Practice of Occupational Therapy in Mental Health)	履修年次: 必修: 作3 年	単位数:1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者 岡村 太郎、 (研究室 8) 清水 大輝、修行 拓弥 [作業療法士]
		実務経験のある教員による授業科目	コード:ROP302	
[DP] III 実践に必要な知識, I 倫理観とプロフェッショナリズム, II コミュニケーション能力				
[授業の到達目標及びテーマ]				
本科目では、精神障害領域の臨床現場で作業療法の実践に必要な知識、態度・技術を修得することを目標に、以下のテーマで演習を進めていく。				
① 総論				
② 疾患別作業療法の展開 (ICF に基づく事例検討)				
③ 地域生活支援 (企画・運営)、臨床技能演習				
[授業の概要]				
地域精神保健福祉における作業療法として、当事者主体の実践モデル、根拠に基づいた実践モデル、社会資源の活用、精神障害に対する啓発活動に関する作業療法プログラムの実践方法を身につける。精神障害領域の代表的疾患について、ICF に基づく事例検討、プログラムの企画・運営を演習形式で実施し、作業療法の一連の過程を修得する。本演習はオムニバス方式により行い、主に、総論は岡村太郎が、各論には精神障害の作業療法の実務経験に基づき清水大輝、修行拓弥が担当する。				
キーワード:地域精神保健福祉、作業療法、事例検討、臨床実践能力				
[授業計画]				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/15	オリエンテーション	講義の概要、目的、進め方の説明	清水/岡村
第2回	4/22	事例検討、問題演習	統合失調症	清水/岡村
第3回	5/13	事例検討、問題演習	統合失調症	清水/岡村
第4回	5/20	事例検討、問題演習	気分障害	清水/岡村
第5回	5/27	事例検討、問題演習	気分障害	清水/岡村
第6回	6/3	事例検討、問題演習	物質関連障害	修行/岡村
第7回	6/10	事例検討、問題演習	物質関連障害	修行/岡村
第8回	6/17	事例検討、問題演習	パーソナリティ障害	清水/岡村
第9回	6/24	事例検討、問題演習	パーソナリティ障害	清水/岡村
第10回	7/1	事例検討、問題演習	神経症性障害	清水/岡村
第11回	7/8	事例検討、問題演習	その他の精神障害	清水/岡村
第12回	7/15	地域生活支援 (プログラムの企画)	デイケアの作業療法	清水/岡村
第13回	7/22	地域生活支援 (プログラムの企画)	地域訪問作業療法	清水/岡村
第14回	7/24	振り返り	振り返り	清水/岡村
第15回	7/29	まとめ	精神作業療法学演習のテスト	清水/岡村
履修条件		特になし		
予習・復習		予習にテキスト、復習にノートを参照のこと。		
テキスト		標準作業療法学 専門分野 精神機能作業療法学、医学書院		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		試験 (60%)、課題 (30%)、日ごろの学習態度 (10%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	発達期作業療法学 Occupational Therapy for Children	履修年次: 必修: 作2年	単位数: 1 単位 1 5 時間	担当教員名: 有川 真弓 [作業療法士] (研究室: 仁戸名研究棟 4)
		コード: ROP208		
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] Ⅲ実践に必要な知識 Ⅳ健康づくりの実践				
[授業の到達目標及びテーマ]				
1) 発達期における作業療法の役割を説明できる 2) 発達期作業療法でよく用いられる評価の目的や種類、方法等について説明ができる 3) 発達障害の特徴、評価方法について説明できる 4) 感覚統合機能の評価と治療について説明できる				
[授業の概要]				
発達期作業療法の対象疾患・障害や作業療法を提供する治療・援助の場は多様である。状況により、臨床的行動観察により評価することもあれば、標準化された検査を用いることもある。本科目では、子どもの定型発達の諸側面の観察評価を修得する。発達期作業療法でよく用いられる評価の目的や種類、方法等について説明ができるようになることを目的とする。さらに発達障害の病態や評価と治療と感覚統合評価と感覚統合療法について学修する。本科目は作業療法士の実務経験に基づき行われる。				
----- キーワード: 発達検査, 発達障害, 感覚統合				
[授業計画]				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	12/2	発達期作業療法総論・ 発達検査	発達期作業療法の概要とその役割, 面接・観察・評価の 進め方	
第2回	12/9	発達検査	発達検査 (デンバー, 遠城寺, K式, KIDS, DTVP, 田 中ビネー, JMAP 等) 演習	
第3回	12/23 Ⅲ限	発達検査		
第4回	12/23 Ⅳ限	発達検査		
第5回	12/23 Ⅴ限	発達検査		
第6回	1/6 Ⅳ限	発達障害	発達障害の病態	
第7回	1/6 Ⅴ限	発達障害	発達障害の評価と治療	
第8回	1/13	感覚統合	感覚統合理論の評価と治療	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジメの見直しを行うこと。		
テキスト		イラストで分かる発達障害の作業療法 (医歯薬出版)		
参考書・参考資料等		適宜紹介する		
学生に対する評価		筆記試験 (70%)、課題 (20%)、学習態度 (10%) により総合的に評価する		

授業 科目 名	発達期作業療法学演習 Practice of Occupational Therapy for Children	履修年次: 必修: 作3年	単位数: 1単位 30時間 コード: ROP303	担当教員名: 担当教員名: [作業療法 士]
		実務経験のある教員による授業科 目		
		有川 真弓 (研究室: 仁 戸名研究棟4)、米持 喬		

〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識 Ⅳ健康づくりの実践

〔授業の到達目標及びテーマ〕
1) 発達期における作業療法の対象疾患の特徴, 評価方法について説明できる
2) 定型発達児の集団生活場面での行動観察から発達段階を評価できる
3) 発達障害児の作業活動場面から発達特性を評価できる
4) 発達期作業療法における支援目標と支援計画を立てることができる

〔授業の概要〕
本科目では、発達期作業療法の基本的な考え方を理解するとともに、対象疾患・障害の基本的知識を学修する。主な対象疾患である自閉スペクトラム症や脳性麻痺等の作業療法支援について、演習を通して学修する。支援の場の違いによる発達期の作業療法士の役割や機能の違いを理解する。
キーワード: 脳性麻痺、重症心身障害、事例検討

〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	6/17 3限	オリエンテーション	オリエンテーション	有川真弓
第2回	6/24	知的障害等の作業療法	染色体異常等の評価と支援	有川真弓
第3回		感覚統合	発達障害の評価と支援	
第4回	7/1 1～3 限	脳性麻痺の作業療法 (ジャージ などの服装)	脳性麻痺の病態	米持 喬
第5回			脳性麻痺の評価	
第6回			脳性麻痺の支援	
第7回	7/8	事例検討	具体事例の行動分析	有川真弓
第8回				
第9回	7/15	事例検討	具体事例の行動分析	有川真弓
第10回				
第11回	7/22	事例検討・遊具体験 (ジャージ などの服装)	具体事例の治療計画立案	有川真弓
第12回			遊具体験・治療計画発表	
第13回	7/29 1～3 限	脳性麻痺の作業療法	脳性麻痺の作業療法の実際①	米持 喬
第14回		脳性麻痺の作業療法	脳性麻痺の作業療法の実際②	
第15回		重症心身障害の作業療法	重症心身障害の病態・評価・ 治療	

履修条件	特になし
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはレジメの見直しを行うこと。
テキスト	イラストで分かる発達障害の作業療法 (医歯薬出版)
参考書・参考資料等	適宜紹介する
学生に対する評価	課題 (90%)、学習態度 (10%) により総合的に評価する

授業科目名： 老年期作業療法学 Occupational Therapy for Senile Disorders	必修：作2年後期		1 単位 15 時間	担当教員名： 松尾真輔 【作業療法士】 (仁戸名研究室6)
			コード：ROP209	
	実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕 III. 実践に必要な知識 IV 健康づくりの実践 V. 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
高齢者および高齢者と生活を共にする家族の生活を理解し、高齢者の老化に伴う変化・特徴や生活背景などを踏まえたうえで、関わる際の留意点を理解する。 また高齢者に関わる作業療法士の役割を理解し、個々の高齢者を包括的に捉え、ニュースや新聞で取り上げられる日々の情報の中から、高齢者や高齢者を取り巻く環境に関わる情報に関心を持つことができりように心がける。今後、高齢期作業療法を学ぶ上での基礎となる科目となるため、講義内容ごとの復習が重要となる。				
〔授業の概要〕				
老化にともなう身体的・心理的变化など高齢者の特徴や対象者として関わる際の留意点を学ぶ。また、高齢者のライフサイクルを含めた人生における背景を知り、高齢者にとって意義ある作業とは何かを探究する視点を学ぶ。				
キーワード：高齢化、高齢者の特徴と課題、高齢期の作業療法、				
〔授業計画〕				
回 数	日 付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/7	授業ガイダンスと導入	「高齢者の定義」について考える。	
第2回	10/21	高齢者の育ってきた時代背景	予習：高齢社会、老化、加齢に関するニュースなど情報を集め、時代背景を知るに必要な本や新聞などの資料を持参すること。	
第3回	10/28	高齢者の特徴と課題	高齢者に起こり易い疾患や合併症についての基礎的知識を学ぶ。	
第4回	11/4	高齢者の生活と制度	高齢者に関する制度や社会資源を学ぶ。	
第5回	11/11	高齢期の作業療法	高齢者に対する作業療法の役割や機能、目的を知る。	
第6回	11/18	認知症の作業療法	認知症に対する作業療法の役割や機能、目的を知る。	
第7回	11/25	MTDLP 概論	生活行為向上マネジメントを理解する。	
第8回	12/2	まとめ	講義の総括（重要事項の整理）	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習はテキスト、配布資料を熟読し、復習は配布資料と記載ノートの見直しを推奨する。		
テキスト		標準作業療法学 高齢期作業療法学 第4版（医学書院）		
参考書・参考資料等		ベッドサイドの高齢者の診かた 第1版 ※授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験(50%)、課題・発表(30%)、日ごろの学習態度(20%)により、総合的に評価する。		

授業科目名： 老年期作業療法学演習 Practice of Occupational Therapy for Senile Disorders		必修： 作業 3 年前期	単位数：1 単位 コード：ROP304	担当教員名： 松尾真輔、須藤崇行、 浦部智章、特別講師 [作業療法士]
〔DP〕Ⅰ倫理観とプロフェッショナリズム Ⅲ実践に必要な知識 Ⅳ健康づくりの実践 Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法士として老年期プログラムにおける分野ごとの提供・相談・調整をするために必要な知識と技能を修得する。高齢者に関わる作業療法士の様々な場面での役割を理解し、個々の高齢者を包括的に捉え、高齢者を取り巻く状況に対応できるようになる。 1. 対象者や家族を調整し問題を解決する方法を、疾患や環境に応じて説明することができる。 2. 老年期作業療法プログラムを立案することができる。				
〔授業の概要〕 高齢者特有の疾患や臨床現場で対象者と関わる際の留意点を学ぶ。高齢者にとって意義ある作業プログラムとは何かを探究する視点を学ぶ。				
キーワード：高齢者の疾患と課題、老年期の作業療法、包括的視点				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	講師
第 1 回	4/11	訪問リハの作業療法	訪問時の作業療法士の役割	須藤
第 2 回	4/11	訪問リハの作業療法	訪問時の作業療法の実際	〃
第 3 回	4/11	訪問リハの作業療法	訪問時の作業療法の実際	〃
第 4 回	4/18	中高年者の就労支援	中高年者の就労支援についての実態	特別講師
第 5 回	4/18	中高年者の就労支援	中高年者の就労支援についての在り方	〃
第 6 回	4/25	老健施設での作業療法	介護を必要とする高齢者の自立支援の在り方	浦部
第 7 回	4/25	老健施設での作業療法	老健でのリハビリテーション	〃
第 8 回	4/25	老健施設での作業療法	老健での作業療法の役割について	〃
第 9 回	5/9	認知症に対する作業療法	認知症の病態のおさらい	特別講師
第 10 回	5/9	認知症に対する作業療法	認知症の人の生活について事例を通して学ぶ	〃
第 11 回	5/9	認知症に対する作業療法	評価から治療までの一連の流れについて	〃
第 12 回	5/16	MTDLP の実際	MTDLP シートの活用方法について	松尾
第 13 回	5/16	MTDLP の実際	実際の事例を通じて MTDLP の各シートを使用する	〃
第 14 回	5/23	MTDLP の実際	実際の事例を通じて MTDLP の各シートを使用する	〃
第 15 回	5/23	MTDLP の実際	実際の事例を通じて MTDLP の各シートを使用する	〃
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読、復習として配付資料の見直し		
テキスト		標準作業療法学 高齢期作業療法学 第 4 版（医学書院）		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する		
学生に対する評価		試験（40%）、学習態度（30%）講義内課題（30%）により、総合的に評価する		

授業 科目名	高次神経機能作業療法学 (Occupational Therapy of Higher Brain Function)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 藤田佳男[作業療法士] (仁戸名研究室5)
		必修: 作業3年	2単位 30時間	
			コード: ROP210	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム, Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
高次神経機能とその障害の原因、障害像や症状、治療、訓練について講義により理解する。 高次神経機能を評価する方法について、デモや実技を見て理解する。				
〔授業の概要〕脳血管障害や脳外傷などによる高次神経機能障害（高次脳機能障害）について、基礎的な知識を修得する。高次神経機能（感情、注意、記憶、認知、行為、コミュニケーション、遂行機能、前頭葉機能等）についてそれぞれ障害部位、障害像、具体的な症状などを講義により系統的に修得する。その評価方法および対応や治療・訓練について、主にグループ学習と発表により学修する。病院で勤務経験がある作業療法士の実務経験に基づき実施する。				
キーワード: 高次脳機能、神経心理学, 評価				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1,2回	4/15	オリエンテーション 総論	オリエンテーション 高次脳機能の概要	
第3,4回	4/22	知能 注意と意識	知能とその評価, 治療, 訓練 注意機能の障害像と評価, 治療, 訓練	
第5,6回	5/13	記憶 失語, 失行, 失認	記憶機能の障害像と評価, 治療, 訓練 失語, 失行, 失認の障害像と評価, 治療, 訓練	
第7,8回	5/20	視覚認知 遂行機能, 失読, 失書	視覚認知機能の障害像と評価, 治療, 訓練 遂行機能の障害像と評価, 治療, 訓練	
第9,10回	5/27	情動, 意欲(社会的行動) 地域生活	情動, 意欲(社会的行動)の障害像と評価, 治療, 訓練 地域で生活するために, 損傷部位別の特徴	
第11,12回	6/3	グループ発表	グループ発表1	
第13,14回	6/10	グループ発表	グループ発表2	
第15回	6/17	まとめ		
	6/24	予備日		
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習には配布資料を用いることを推奨する。		
テキスト		武田克彦ら編、「高次脳機能障害のリハビリテーション Ver.3 医歯薬出版。		
参考書・参考資料等		石合純夫, 高次脳機能障害学 第三版 医歯薬出版		
学生に対する評価		定期試験(40%),課題 (20%) 授業態度(小テスト等含む:40%)で総合的に評価する。		

※30 分以上の遅刻は欠席として扱う。

※Tは小テスト予定日である